

○議長 横尾 武志君

6 番、田島議員の一般質問を許します。田島議員。

○議員 6 番 田島 憲道君

6 番、田島憲道です。

件名 1、ふるさと納税について一般質問をさせていただきます。まずは、この中でふるさと納税をほかの自治体にやってらっしゃる方、いらっしゃいますか。〔挙手する者あり〕何名かいらっしゃいます。それはやっぱりお返し目当てですか。それとも芦屋町に対してですよ、もちろん。

では、きのうの刀根議員と重複する質問ですが、バトンを受けたという形で関連質問を含め聞いていきたいと思います。

ふるさと納税については、昨年度、全国での利用者は 10 万人、寄附金 130 億円を超えています。政府はこれを受けて、来年度の目玉のひとつに税金が軽減される寄附の上限（控除額）を 2 倍に引き上げるほか、確定申告も不要などの関連手続きの簡素化、そして、負担額も 2,000 円から 1,000 円にするなどの拡充をする方針と聞いています。芦屋町の現状と取り組みについてお尋ねします。

① 2008 年の制度開始から、納税額の実績とその使い道はどのような状況でしょうか。1 回目の質問です。

○議長 横尾 武志君

執行部の答弁を求めます。企画政策課長。

○企画政策課長 中西 新吾君

平成でお話をさせていただきます。ふるさとを応援したい人の思いを実現するために、平成 20 年 4 月に地方税法の一部が改正され、ふるさと納税制度が制定されております。この 20 年度から 25 年度までで、寄附金額数と総額は、250 件で 2,154 万 7,000 円余となっております。

使途につきまして、あしや花火大会に 6 年間で、803 万円。あしや花火大会を除く充当事業といたしまして、25 年度で図書館の図書購入、成人式記念品、芦屋釜の里のわずく、町民ブラスバンド楽器購入、公民館のバリアフリー改修に全額または一部として、225 万 9,000 円を充てています。26 年度は保安林の松の植樹、海浜公園の健康遊具、新 1 年生のランドセルカバー、同じく図書購入、成人式記念品、芦屋釜の里のわずく、町民ブラスバンド楽器購入、公民館のバリアフリー改修に全額または一部として、278 万円を充てる計画でございます。

以上です。

○議長 横尾 武志君

田島議員。

○議員 6 番 田島 憲道君

芦屋町は結構大口の寄附金が、この制度が始まる以前からもあっております。恵まれている環境だなあとと思います。洞山の保存もそうでしたね。釜風呂の跡地の寄贈、吉田直の文庫、そしていつも花火大会へ大口寄附される事業者の方々。芦屋町に対する皆さんの真摯な思いに本当に感謝し、これに応えなければなりません。特に花火大会なんかは大口、小口と金額の大小にかかわらず、広く町民に募金を募っています。実際、補助金に頼るほうが大きいですが、毎年開催できております。

ところで、お盆休暇に友人たちが帰省して、帰ってきていろいろ会って話したんですが、今、都会では各地のふるさと納税に寄附するのがトレンドだそうです。はやっています。縁もゆかりもない自治体へ寄附をする。目的は返礼の品物です。その地域の特産品、例えば高級和牛や肉です。そして高級メロンなどのフルーツ。それはそれは大変豪華なものがあります。

例えば、ある友人なんですが、彼はしっかり僕より稼いでいます。芦屋に寄附しようと思ったんですが、福岡市のサイトをみると、ホームページを見ると、11種類、お返し品が出て、唐泊の恵比須カキがあると。迷わずそれにしたと言うんですよ。3万円の寄附で手出しが、2,000円。それで2キロの生ガキがもらえたと。

そしてまた、寄附のその使い道を子供と一緒に考えたそうです。その数々のメニューの中から福岡城の復元、そして福岡動物園の餌代にする。そういうのがあって、本当に迷ったあげく、小1のお嬢さんがレッサーパンダ、これ人気があるそうなんです。この餌代にしてくれと飼育員に手紙を書きました。ほほ笑ましい話だと思います。このお盆に帰ってきたときに、この動物園は夜の動物園というのをやっています、家族でレッサーパンダに会ってきたそうです。この小さな家庭の中で、親子の間でこういうほほ笑ましいストーリーがあるんですね。

このふるさと納税、簡単に考えてはだめだと思います。今、お礼の特産品ばかりが注目されていますが、しかし、この親子みたいに真剣に自分達の税金が何に使われるか、これを考え、そして決断をする。住民のひとりひとりが、たったひとりでも地方の政治に選挙以外で参画できる、目に見える形で地域社会に貢献できると。これは、単なる寄附とは大きく違っていると僕は思っています。ちなみにこの福岡市では去年度、1億2,600万円もの寄附が集まったそうです。

質問にいきます。②です。現在、芦屋町は寄附された方に対し、どのような対応をしているのか。これはきのう刀根議員が質問されましたが、もう一度説明をお願いします。

○議長 横尾 武志君

企画政策課長。

○企画政策課長 中西 新吾君

平成 26 年第 3 回定例会（田島憲道議員一般質問）

芦屋町では町長のお礼状と 5, 0 0 0 円以上の寄附をいただいた方に対し、より深く芦屋町のことを知っていただくためにお礼の品として、芦屋釜の里で販売しています和菓子をもた、希望される方には芦屋町誌、芦屋釜展の図録を贈っています。また、さらに 5 万円以上の寄附をいただいた方には、さらに芦屋釜の里で制作された工芸品を贈呈しています。このほか、町外居住の方には広報あしやの送付、活用事業に対する報告、リピートをお願いなどを送付しております。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

田島議員。

○議員 6 番 田島 憲道君

5 万円以上の寄附をした人には釜の里制作の工芸品、限定品の鋳物と、それと 5, 0 0 0 円以上に和菓子。これもオリジナルなんですよね、釜の里の。そういうふう聞いております。ということ。この工芸品、鋳物師手づくりのオリジナルの工芸品これまで何個送っておりますか。これは希望者のみでしょうか。質問です。

○議長 横尾 武志君

企画政策課長。

○企画政策課長 中西 新吾君

今年度から 5 万円以上ということになりますので、今年度で 5 万円以上まだ、贈るのは年度末に贈るような形になります。ですから今の段階では数件ということしか申し上げようがありません。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

田島議員。

○議員 6 番 田島 憲道君

例えば、競艇選手などがふるさと納税をやってくれておりますが、これをあげるのでしょうか。彼らにこの価値がわかるのかなとか思うんです。僕はこの鋳物師のお香立てを、工芸品を実際見に行ってきました。ちょうど僕が行ったときに鋳物師の 1 人がこれをつくってしまして、でき上がったものを見させてもらったんですけど、これすごいなあと思って感心しました。シンプルな受け皿に芦屋海岸でとれたいろいろな貝殻をモチーフにした、まあすばらしいお香立てだなあと思いました。

ホームページを見ると毎年かわると。返礼品がかわるということなんですけど、例えばえとをデザインした作品、これなら毎年集めようかなあと思うかもしれません。日本人は集めるのが好きですから。去年、広島造幣局にしたら桜を見に行ってきたんですよ。ここで、えとで記念コイン

平成 26 年第 3 回定例会（田島憲道議員一般質問）

ンや本のしおりをつくってしまして、やはり皆さんお土産に買っているんですね。これは、この芦屋釜の鋳物師、5 万円、鋳物師の作品、工芸品ですが、5 万円以上の方にひとつ差し上げる。かなり 30 万円、50 万円寄附される事業者もありますよね。

これは 5 万円ごとに一つでしょうか。お聞きします。

○議長 横尾 武志君

企画政策課長。

○企画政策課長 中西 新吾君

5 万円以上していただいた個人、事業者の一つとしております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

田島議員。

○議員 6 番 田島 憲道君

そうだと思います、ばかな質問ですみません。

これ一つですね、きのうプレミアム価格と言われていましたが、釜の里に 8,000 円相当で販売しているということなんで、実際に見たんですが、鋳物師の 1 人が去年独立されて、彼が実際それをつくっているのかなと思っていましたが、違っていて、独立した鋳物師は大変忙しい。たくさん茶釜の注文を受けているそうです。今、茶釜を注文しても数年待ちと聞きました。それで、今、この工芸品は職員の鋳物師がつくっているということです。これは簡単にできるものではないんですよ。細かい作業が伴うので、結構大変ですと言っていました。僕はね、これからふるさと納税どんどんブームになっていくかもしれないので、これ以上ふえたらどうしますかと聞いたんですよ。今でも追われている状態なんですよと言っていて、本来の茶釜の制作、大きな作品ですから、これに支障が出てくるのではないかとちょっと思っております。

ところで、今、福岡市博物館で NHK 大河ドラマとタイアップした「軍師官兵衛特別展」というのをやっています。こちら行かれた方、いますか。7 月 26 日から始まって 9 月 21 日までなんです。もう 5 万人を超えたという報道があります。当時の国宝級の本物ばかりをこれ集めているんですが。有名なこの赤いかぶと、そしてよろいがあるんですよ。そして、民謡黒田節に「日本号」というのが出てきます。長いやりですね。3メートル 20 超えたすごい長いやりが、一本やりがあるんですよ。これをちょっと僕は妻と見に行ってきました。よく妻が民謡黒田節を歌うんですが。その中で、官兵衛が毛利家の 3 人のお殿様の一人、吉川広家に献上した芦屋釜。別名如水釜と言われてる物、ここにありますが、それとですね、黒田家に代々伝わる芦屋釜。芦屋釜が二つ展示されていました。そこにですね、遠賀郡芦屋町発祥、そして、播磨芦屋、伊勢芦屋等の分派があり、伝えられたという紹介のプレートができてあったんですよ。今ですね、大河

ドラマの「軍師官兵衛」で、茶釜が重要なシーンで何度も登場してきているんです。所領を加増されるより、明智光秀は茶釜を欲しがらるんですよ。このドラマが始まる前に、僕は担当課に今の 2 人の現代の芦屋釜鋳物師がつくった芦屋釜を出演させたらいい。そして、この大河ドラマに便乗して、芦屋町、芦屋釜を盛り上げるチャンスだと話しに行ったんですよね。何もなかったんですよ。

それで、商工会の活性化委員会でもですね、活性委員会、町が 120 周年のときに役場の若い職員に芦屋ブランドをつくれというのがある、さっき辻本議員の質問ときも説明があっただけでしたね。これ何もできなくて、次の年に商工会にやれとこれおりに来たんですよ。そこで僕、これ提案したんですけど、スルーなんですよね。実に、僕に力がないなと思って。本当、今、しかし何もできていない状況なんです。

ちなみにですね、現在この大河ドラマによる経済波及効果は福岡県 169 億。そして大分県、中津あたりに、最初に如水が九州征伐のときにその恩賞で九州に入ってきました。中津城に入ってきました。大分県でも 74 億と試算しています。これは公益財団法人九州経済調査協会が先日、発表しました。これはですね、篤姫の鹿児島県、262 億、龍馬伝でありましたよね。長崎県では 276 億円に、これらに並ぶ水準と書いてありました。果たして、芦屋町にどれだけ、今、黒田官兵衛が経済効果をあげているか、私はちょっと疑問に思います。これは出遅れたんじゃないかと思えます。きのうの町長ではないですが、これは今じゃなくてやっぱり、これこそ今でしょと言いたいです。

それですね、アイデアひとつで何でもやれたと思うんですよ。僕ら委員会視察するたびに、手土産を用意しているんですが、いつも芦屋釜もなかですね。このもなかばかりでなくて、吉川広家に、吉川家に伝わった如水釜を型取ったもなかがあってもいいんじゃないかと思えます。如水釜まんじゅうがあってもいいと思えます。この有名な赤い茶わん型のかぶとですね。これそっくりの鋳物で赤茶わんをつくるとかですね。例えばふるさと納税の話題づくりに、話題づくりですよ。500 万寄附したら、芦屋釜を一つ献上すると。そのときに町長がですね、織田信長にコスプレ、扮してですね、贈呈するとこれ、なかなかおもしろいんじゃないかと思えます。こんな近隣にはない観光資源がいっぱいあるんですよ。しかし、全然活用されていないんじゃないかなと思えます。

それと、本題というか、返礼品についてです。今、各自治体が返礼品に趣向を凝らし力を入れて取り組んでいます。自治体としても地域の特産物のピーアール、企業をピーアールできるメリットがあります。ここにですね、いくつか返礼品のカタログを各自治体から、ホームページからプリントアウトしております。すごいんですよね。カタログハウスのような豪華さがあつたりしますが、例えば、佐賀県の玄海町。これものすごい有名になっていますよ。ここに寄附すれば佐

平成 26 年第 3 回定例会（田島憲道議員一般質問）

賀牛がもらえるということで、去年全国から 9, 9 0 0 件、金額にしたらですね、2 億 5, 0 0 0 万円集めたそうです。全国 1 位、2 位ですね。2 0 1 2 年度の実績は 4 1 6 万だったそうなんですよ。

長崎県の平戸市。ここは、いち早くポイント制を導入しています。寄附 1 万円に対し 4, 0 0 0 ポイント。1 0 0 万円以上には 1 0 万円ごとに 5, 0 0 0 ポイント加算しています。例えば 1 5 0 万の寄附なら、7 5 万ポイントつくそうです。お中元やお歳暮などの贈答品に利用できると、これ至れり尽くせりで、カタログ見ると、これはすごい、すごい。おもしろいのがあって、最近結婚式を挙げない人たちがいますよね。なしなし婚と。写真だけの結婚式、これ 1 1 万ポイント。客室 2 時間食事つき。こういうのもあります。金婚式の薦め。還暦や金婚式、銀婚式に使ってください。これは 8 万ポイントです。いろいろなツアーが宿泊券つきのツアーが企画されています。4 万 5, 0 0 0 ポイントで毎月、平戸新鮮便、旬なものを贈ってもらえるというのもありますし、限定のプレミアムセットなら年に 4 回、平戸和牛とかですね、アラの鍋セットなどが贈れるようなこういうものが、自治体のホームページから見ることができます。その中にやっぱりこれ平戸焼作品、これが 5 0 万ポイント。これだけ寄附すれば平戸焼がもらえるということですね。今年度のこちらの実績が 7, 2 5 2 件、2 億 4 1 万円集めています。去年 8 月からこのカタログを始めて、今年 6 月からは品物を 8 3 種類ふやし、前年の 3 倍強ということです。これはクレジットの支払いもあり、よっぽど力を入れているのがわかります。

山形県の東根市ではラフランスを 1 万円以上の寄附した方に 5 キロのお返しをする。そして、岐阜県の各務原市、ここはですね 1 万円の寄附につき、1 品を選べます。現在 6 8 品目あります。5 万円寄附するなら 5 品選べるということです。これですね、いろいろなのがあって、岐阜県岐阜基地のオリジナルの自衛隊グッズがあります。見たらブルーインパルスあるんですよ。ブルーは松島の次は芦屋基地じゃないかと、うちの十八番じゃないかなと思って、これはやられたなあと感じがします。

そこですね、芦屋町も町内の特産品を活用し、返礼品をふやしたらいいのではと思います。例えば、定番の芦屋釜もなかを入れたりとか、地元の有志と有名漫画家が桃のサイダーというのを始めているんですよ。そういうのもありますし、ほかにも浜崎、柏原代々伝わる製法の天日干しのあしやみりん、そして、6 次産業化認定を受けたみりん干し屋さん、そこがつくっているサワラの干物やいかめしですね、これは認定を受けています。また、観光協会が細々やっているホームページの中で、ショッピングモールってやっているんですよ。あの中のものも入れてあげる。そして食べ物以外では八朔の馬。そしてその大将馬。それにマリンテラスの宿泊券。宿泊に食事つき、それもイカの活きづくりなど。これも面白いと思います。また風呂の回数券チケットですね、これもいいと思います。そして、芦屋町にはたくさんの飲食店があります。それらの

クーポン券。また、吉田直。彼の作品の関連グッズですね。そして先ほど言いました芦屋基地の自衛隊グッズ。例えば、きょうちょっと持ってきています。これ、ブルーインパルスヘルメットの石けんですね。これは夏井ヶ浜のこじゃれた石けん屋さんがこれをつくっています。限定品で、あっという間に売り切れました。素晴らしいものが芦屋でできるんですよ。

こういうふうですね、たくさんラインアップしてその中から好きなものを選ばせる。みんなで考えればいろいろ出てくると思うんですよ。きのうの今井議員さんが言われていました、情熱ある者が集まって議論する場をつくる。町を変えるのは、これ僕の好きな言葉です。「ばか者、若者、よそ者」と言います。これ教育長から私は教わりました。役場やですね、商工会、観光協会みんな優秀な方が多いんですが、本気でばかになれる人はいないのかなと最近つくづく思います。

では③の来年度の取り組みや今後のピーアールなど、どのような考えで進めていきますか。質問です。

○議長 横尾 武志君

企画政策課長。

○企画政策課長 中西 新吾君

田島議員がおっしゃられましたストーリーがあれば非常によろしいなというふうに思いましたが、ふるさと納税制度本来の趣旨が薄れたような、寄附者の特産品のお取り寄せ感覚があり、自治体間の過当競争が発生しているように思われます。一方、産業の振興という面から、民間企業のサイトを利用して、ピーアールに励んでいる自治体や、ふるさと納税の代行業務を民間委託している自治体もあります。また、特産品の贈呈は行ってはいるけれども、特産品により寄附額の増加をはかる意図ではないため、積極的なピーアールを控えている自治体もあります。

自治体によっては、さまざまございますが、国ではふるさと納税制度を 2015 年から拡大する検討に入っている、ということでございますから、この動きに注視し、芦屋町の対応を考えていきたいと考えております。また、総務省から通達がございまして、25 年 9 月 9 日付でございます。寄附者との関係づくりにおいて、「特産品等の送付について、適切に良識をもって対応してください。」とありますので、このあたりの動向にも十分注意を払いたいと思います。

芦屋町の場合、特にリピーターの占める割合が、件数で 50 件、寄附額では 80% を占めるという高い状況でございます。高額寄附者の方や東京芦屋会の方々とおられますので、納付者との関係づくりがまず第一番と考えておりますので、引き続き広報あしやの送付などを行ってまいりたいと考えております。ピーアールにつきましては、今後、国の動向次第ということになってくるかと思いますが、基本的には寄附目的を設けている自治体もありますので、条例の用途の追加、目的というものを加えるなり、また変更について研究、検討をしてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

田島議員。

○議員 6 番 田島 憲道君

これについては、今、本当過剰化してきているなど、熱をおびてきているなど、本当感じております。町民でふるさと納税をやっている人数とかわかりますか。本来、町に入るべきものがよその自治体に行ってしまうわけですよ。そしてですね、先ほどちょっと冒頭に聞きましたけど、町職員で現在町外に住んでいる方で、まさか、ほかの自治体に寄附している方はまさかいないと思います。しかし、これをするならまずは芦屋町。ね、大長光さん。まずは芦屋町です。まず、芦屋町が最初だと思います。そしてですね、近隣の遠賀 3 町、まだこの返礼品始めてないんですよ。しかし、これからわかりません。今後、町内の納税者が隣町に寄附したり、町内の高額納税者がほかの特産品の豪華なところにぼんぼん寄附したりとかいうことも考えられます。人数、町外在住の職員でふるさと納税を芦屋町にしている人、芦屋町に。大長光さんを含め何名かわかりますか。質問です。

○議長 横尾 武志君

企画政策課長。

○企画政策課長 中西 新吾君

芦屋町の医療職をのけた職員数というのが大体 1 5 0 名おります。職員向けに、親戚の方や友人、同窓会などでのピーアール依頼というのは、職員の寄附の依頼も行っておるわけです。このなかには「ふるさと納税試算プログラム」というのもつけさせていただいて、行っておりますが、2 5 年度は 1 2 人から 2 6 万 8, 0 0 0 円という寄附がっております。田島議員からの一般質問で、ここにおられる管理者も聞かれておりますので、この機に再度ピーアールしてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

田島議員。

○議員 6 番 田島 憲道君

今現在ですね、全国の住民税が 1 2 兆円と言われております。そのうちの 1 割の控除なんで、1 兆 2, 0 0 0 億円の市場なんですね。見込みは、数百億程度とあると聞きました。来年度は、控除も 2 割になるようです。冒頭も言いましたけど、負担額が 2, 0 0 0 円から 1, 0 0 0 円になる。これはですね、まだまだ市場は伸びていくのではないかと思います。財源移譲だけでなく、特産品のピーアールや観光客や企業誘致の起爆剤として、期待も高まっております。各自治体の

平成 26 年第 3 回定例会（田島憲道議員一般質問）

創意工夫も本当にみんないろいろやっています。そして、分捕り合戦も始まっています。これについては、本当、さっき言われましたように賛否あると思いますが、国の施策としてやっているの、芦屋町も前向きに取り組んでほしいと思います。

最後に、町長にふるさと納税についてのご自身のお考え方をお聞きして、私の一般質問を終らせたいと思います。

○議長 横尾 武志君

町長。

○町長 波多野茂丸君

いろいろな田島議員流のですね、いろいろなふるさと納税の考え方というのをさっきからお聞きさせていただいております。非常に、言葉は悪いんですけど、おもしろいな、そういうことができればいいなというふうに思っておるわけでございます。ただ悲しいかな、先ほど来より辻本議員からも出ました、それから特産品の件で——あ、今井議員からも出ました。なかなか芦屋のこれというのがですね、私はその辺は遠賀郡 4 町のなかでも芦屋が一番遅れているんじゃないかと。岡垣でも遠賀でも一生懸命、特産品やろうとしています。水巻、あの何もないといたらあれなんですけど、なかったところが、でかにんにくをですね、やっておるんです。芦屋町はたくさんいろいろなものがやろうと思えばできるのに。今からそれをみんな若い人たちが本当に、今やる気を持って取り組んでおる若い人たち、たくさん知っています。5 人グループとか、一般の人たちがよく芦屋の勉強をしたりしているところでもあります。ものすごく期待しているわけがあります。だから我々行政もしっかりしなくちゃいけないジソの核となる商工会にまずしっかりしてもらわなくてはいけない。みんなで取り組めばですね、今のような田島議員のご提案のようなアイデアがどんどん出てくるのではないかと考えております。

現状では、ふるさと納税の周知の仕方というのは、ホームページで、一般の方はホームページでしかお知らせするしかないわけでありまして。芦屋の場合は今何をやっているかということ、東京芦屋会、それから芦屋町は中学校が一つですので、同窓会組織があります。同窓会の役員さん方に、東京、大阪等々におられる方を紹介していただいて、そこにふるさと納税のご案内をさせていただくということ。これはなかなかうまい具合にいけないようでありまして、本来そういう方からふるさと納税してもらうのが本来の姿だと思うわけでありまして、今、田島議員が言われましたように、いまちょっと過熱気味になっておりますので、米とか例えば佐賀牛だとか、肉の産地は非常に魅力がありますよね。

だから芦屋もですね、芦屋釜がありますので、そこにやっぱり組織を使うというか、今、裏千家、今度は表千家ということで全国組織でありますのでですね、そういう方たちにもですね、いろいろのご案内を差し上げれば大きな成果が生まれるのではないかと。

平成 26 年第 3 回定例会（田島憲道議員一般質問）

品物も大事ですけど、ルートづくりというのも、やはりものすごく大事なことになるかと思っていますので、ふるさと納税の仕分けをみますと、結構芦屋釜に対してですね、使ってくださいと。釜の復興に使ってくださいというのが結構ございます。そういうことも含めまして、今からだと思っておりますので、もう、議員各位の皆様方のお知恵とお力をお借りする場面がございますので、前向きに皆さんと一緒に取り組んでまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

田島議員。

○議員 6 番 田島 憲道君

町長、ありがとうございます。それでは町外に住んでいる職員にもぜひ、ふるさと納税をわが町に寄附するように町長、言ってください。そして寄附したくなるような返礼品のメニューを商工会、観光協会、農業、漁業、皆さんで、みんなを巻き込み、寄附したくなるように、それとしっかり使い道を考え、実施していただきたいと思います。

これで私の一般質問を終わります。

○議長 横尾 武志君

以上で、田島議員の一般質問は終わりました。